

ねんりんピックで勝山から出場のソフトバレーチームが優勝報告

「ねんりんピック」の愛称で知られる「全国健康福祉祭」。今年は、第20回大会が11月10日から4日間にわたり茨城県で開催され、ソフトバレー福井県代表で出場した『土曜クラブ翼』（笹木英一郎監督）チームが各ブロック1位チームのグループで優勝を果たしました。

『土曜クラブ翼』では、この喜ばしいニュースを報告するため11月20日に山岸市長を表敬しました。根倉毅会長からは「決勝戦では厳しい試合展開となりましたが、出場者と応援者で一丸となったことが勝利に結びつきました。また、愛媛県チームに北谷町北六呂師出身のかたが所属しているなど、大会期間中は全国のかたと交流を深め、勝山には平泉寺や左義長などの観光があり恐竜の骨が多数発掘されているので、ぜひいらっしやいと勝山市の宣伝にも努めてきました。」と報告されました。

これに対し、山岸市長からは、「おめでとうございます。福井県代表として日本一になり、勝山市民の誇りです。また、交流を通じて勝山を宣伝していただき、ありがとうございました。」とお礼の言葉があり、花束が贈呈されました。



山岸市長から花束の贈呈を受け、笑顔で応える土曜クラブ翼の皆さん

大仏の歯をロボットできれいにしよう

『第1回歯みがきロボットコンテスト』が、「いい歯の日」イベントの一つとして11月11日に清大寺で開催され、関係者も含め約600人の来場者で賑わいました。

主催の県歯科医師会では、独自にロボコンやホームページコンテストなどを行う勝山市に注目し、お釈迦様が口臭を不浄として歯みがきを勧めた由来により越前大仏での開催を決定。

コンテストは、大仏模型に付いたマグネットを虫歯菌に見立て、ロボットが制限時間内に歯ブラシで落とすマグネットの個数を競うゲーム。夏休みの親子工作教室で製作したロボットを使うファミリー部門と、手づくりの自律ロボット部門に分かれて行われました。37組の参加による激戦を勝ち抜いたのは、福井市の橋本 瑞樹さん。自律ロボット部門は、福井高専Bチームでした。

同会場では、コンテストの合間に県内小学生の「歯みがき名人グランドチャンピオン大会」も行われ、健康な歯への関心を高める一日となりました。



かわいく裝飾したロボットで、大仏さんの歯みがきに挑む子ども

楽しくなければ学校じゃない

11月22日、23日の両日、かつやま子どもの村小学校の創立10周年祭が開催され、児童や保護者、関係者など約300人が参加しました。

23日には、「楽しくなければ学校じゃない！」をテーマに、教育シンポジウム「自由学校ごともサミット」が開かれました。同サミットは、全国各地の自由学校5校の児童が集まり、学校の紹介や学校生活の楽しいこと、一般の学校との違いなどについて話し合いました。

また、学力についての質問には、「あまり心配していない。分からなかったら実物を使ったりして勉強する。」などと答えていました。同中学校の卒業生からは、「授業で分からなかったことは全くない。」とのコメントもありました。

かつやま子どもの村小学校では、子どもの自主性や個性を尊重し、学習計画や行事も子どもたち自身で決めるなど、体験学習（プロジェクト）を主とした独自の教育方針を掲げています。

全国高等学校ロボット競技大会(沖縄)で善戦

大野東高等学校機械研究部

2年生	太田 裕己さん	栄町3
1年生	鈴木 将平さん	郡町3
1年生	齊藤 優樹さん	栄町1

第15回全国高等学校ロボット競技大会が11月24日に沖縄県で開催され、県予選を勝ち上がった4校が出場。大野東高校の機械研究部(部員12名)からも太田裕己さんのペアチームが全国大会出場権を獲得。

大会には、全国の高校から128校が出場。競技はロボットの操縦者と操縦の指示を出すナビゲータ、相手チームの情報入手などに務めるサポーターが一丸となり行われます。

ところが、大会直前に太田さんが体調を崩し、急ぎよ鈴木将平さんがナビゲータの代役を務めることに。晴れ舞台となる全国大会には、齊藤優樹さんも太田さんと共にサポーター役で出場しました。

1回戦は広島県チームと対戦し、互角の戦いを繰り広げながらもやや優位に戦いを進め勝利。2回戦は兵庫県チームと対戦し、相手チームのルー

ル違反失格により3回戦に駒を進めます。しかし、福島県チームとの対戦では、わずかなミスで勝てる試合を落とし、ベスト16を目前にしての敗退となりました。でも、全国大会で善戦したことは彼らの誇りです。指導にあたった和田修章先生は、「よくがんばってくれました。来年はベスト8以上を目指し、彼らと共にがんばりたい。」と彼らを励ましていました。

自分の意見を活発に述べる自由学校の子どもたち

お見事、全国大会で準名人を獲得

中村 好太郎さん(47) 鹿谷町保田

第12回全日本素人そば打ち名人大会で見事「準名人」を獲得したのは、鹿谷二八会の会長を務める中村好太郎さん。ソフトボールで長年活躍されてきた中村さんは、年をとってもできる趣味を求め、そば打ちを思いつきました。鹿谷二八会が鹿谷雪まつりで、そばの模擬店を出店する際に、中村さんは福井市の岡本9代名人に指導を受け、そば打ちの基礎をしっかりと習得し、全国大会に出場できるだけの実力を養成しました。

ところが、全国大会で入賞を目指すには、そば打ちの技術に加え爪や着衣などの衛生面、包丁の置き方や身の回りの整頓、動作、姿勢など細かな配慮が求められる。このため、中村さんは審査内

容を意識した技術や人に見せるきれいな打ち方を習得するために、福井市の木村敬さんを訪ねます。指導を受けて練習を重ね、迷ったら訪ねること3回。これにより、中村さんのそば道は極みを増し、「大きく変身して自分流のそば打ちができあがった」と言います。入賞を目指して臨んだ全国大会では、思わぬ準名人を獲得し大満足。審査員から「人を惹きつける間を持っている」と評価された中村さん。そば打ちとは「多くの人との出会いで人生を変えてくれた私の人生そのもの」、今後の目標は「完璧にそばを打ち自分のそばで名人になること」とそば打ち同様折り目正しく応える中村さんでした。

すてきに人生



出会いふれあい

1回戦は広島県チームと対戦し、互角の戦いを繰り広げながらもやや優位に戦いを進め勝利。2回戦は兵庫県チームと対戦し、相手チームのルー



大会で活躍したロボットと共に写真右から、鈴木将平さん、太田裕己さん、齊藤優樹さん